



C20・07『涙の谷を過ぎる時も』

[今月の聖書]

—聖歌隊の指揮者によってギテトのしらべにあわせてうたわせたコラの子の歌—

万軍の主よ、あなたのすまいはいかに麗しいことでしょう。わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生ける神にむかって喜び歌います。すずめがすみかを得、つばめがそのひなをいれる巢を得るように、万軍の主、わが王、わが神よ、あなたの祭壇のかたわらにわがすまいを得させてください。あなたの家に住み、常にあなたをほめたたえる人はさいわいです。その力があなたにあり、その心がシオンの大路にある人はさいわいです。彼らはバカの谷を通っても、そこを泉のある所とします。また前の雨は池をもってそこをおおいます。彼らは力から力に進み、シオンにおいて神々の神にまみえるでしょう。万軍の神、主よ、わが祈をおきください。ヤコブの神よ、耳を傾けてください。神よ、われらの盾をみそなわし、あなたの油そそがれた者の顔をかえりみてください。あなたの大庭にいる一日は、よそにいる千日にもまさるのです。わたしは悪の天幕にいるよりは、むしろ、わが神の家の門守となることを願います。主なる神は日です、盾です。主は恵みと誉とを与え、直く歩む者に良い物を拒まれることはありません。万軍の主よ、あなたに信頼する人はさいわいです。(詩篇 84 篇)

王はひじょうに悲しみ、門の上のへやに上って泣いた。彼は行きながらこのように言った、「わが子アブサロムよ。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ。」
(サムエル下 18:33)

そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。人々はイエスの着物をくじ引きで分け合った。(ルカ 23:34)

お元気でお過ごしでしょうか。今月のテーマは「涙の谷を過ぎる時も」です。このタイトルをみただけで詩篇 84 篇 6 節を思い出す方がいるでしょう。キリスト教信仰の醍醐味は、人生の深い試練と苦悩の中にあって、そこを耐えるだけではなく、悲しみと憎しみを、愛と賛美の歌に変えることができる力にあります。イエスキリストの十字架は人類のいかなる苦悩に対しても究極的な癒しであり解決策であります。旧約聖書の詩篇は 150 篇ありますが、そのうち 73 篇にダビデの詩というタイトルがついています。彼は幼い時から神に選ばれ、素直な信仰を持って神を信じ、いかなる逆境の時にも暴力によらず忍耐と祈りによって切り抜けていきました。しかしイスラエルの王として BC1100 頃パレスチナ最強の王国を築き、最も爛熟した時代を迎えた時、①バテシバ事件②息子アブサロムの反逆③息子達の後継者争い④晩年の傲慢の罪 などによって深い苦悩を経験しました。しかしその苦悩の中で、己の過ちを認めつつ、ひたすら神に赦しを乞い、その結果救いを見出したことを通して、さらに新しい歌を生み出したのです。この詩篇 84 篇は息子アブサロムの反逆に対して、怒りと許し、裁きと愛の相剋の中から流れ出した涙の雫のような祈りであります。コロナ問題よりも恐ろしい人の心の苦悩を解決するものはダビデの子イエス・キリストの十字架です。この詩篇の持つ慰めがあなたの心と体を癒してくださるようにお祈りいたします。

(お知らせ)

*7月も地区集会及び自由が丘水曜礼拝はお休みにいたします。緊急事態宣言は解除されましたが、まだ相当なウィルス対策をしなければならぬ現状と、比較的高齢の皆様が集っておられる事を考え8月まで休会といたします。

*ライトハウスからのチャペルメッセージはYouTubeでもご覧いただけます。YouTubeのアプリ、またはYouTubeのホームページでlighthousecfiと検索して下さい。チャンネル登録して下さいれば、今後配信される動画が簡単にご覧いただけます。またテレホンサービス(03-3717-5108)でもメッセージを聴くことができます。ご利用ください。

(文語訳) 詩篇第八四篇

ギテトの琴にあはせて伶長にうたはしめたるコラの子のうた

一 萬軍のエホバよなんぢの帷幄はいかに愛すべきかな

二 わが靈魂はたえいるばかりにエホバの大庭をしたひ

わが心わが身はいける神にむかひて呼ぶ

三 誠やすぐめは窩をえ燕子はその雛をいる巢をえたり

萬軍のエホバわが王わが神よこれなんぢの祭壇なり

四 なんぢの家にすむものは福なり

かゝる人はつねに汝をたゞへまつらんセラ

五 その力なんぢにありその心シオンの大路にある者はさい

はひなり

六 かれらは涙の谷をすぐれども其處をおほくの泉あるところ

となすまた前の雨はもろもろの恵をもて之をおほへり

七 かれらは力より力にすゝみ遂におのおのシオンにいたりて

神にまみゆ

八 ばんぐんの神エホバよわが祈をきゝたまへ

ヤコブの神よ耳をかたぶけたまへセラ

九 われらの盾なる神よみそなはしてなんぢの受膏者の顔を

かへりみたまへ

一〇 なんぢの大庭にすまふ一日は千日にもまされり

われ悪の幕屋にをらんよりは寧ろわが神のいへの門守

とならんことを欲ふなり

一一 そは神エホバは日なり盾なりエホバは恩とえいくわうと

をあたへ直くあゆむものに善物をこぼみたまふことなし

一二 萬軍のエホバよなんぢに依頼むものはさいはひなり